

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 10 月 20 日	
所属部局・職	霊長類研究所 生態保全分野・修士課程 1 年
氏名	武 真祈子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
新潟県妙高市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 10 月 1 日 ~ 平成 27 年 10 月 4 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
静岡大学准教授 杉山茂博士
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)

写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

本実習は、フィールドワークの基礎となるサバイバル技術を習得することを目的として、新潟県妙高市、標高 1300m の高原にある京大ヒュッテにて行われた。参加した学生は霊長研から 6 名、WRC から 5 名の計 11 名であった。日程と、活動内容を報告する。

日程

10/1(木)	10/2(金)	10/3(土)	10/4(日)
14:00 ヒュッテに到着	7:00 起床、朝食の準備(ガレット)	4:00 起床	6:00 起床
15:00 ヒュッテ周辺の散策	8:00 朝食	5:00 登山開始	7:00 朝食
17:00 夕食の用意(パエリア)	9:00 散策	11:30 登頂、昼食	8:00 ロープワーク講習
19:00 夕食、片付け	12:00 ヒュッテに戻る	12:30 下山開始	9:30 清掃
21:00 自由時間	昼食の準備(納豆ご飯)	18:00 ヒュッテに到着	11:30 解散
	13:00 昼食	20:00 夕食(豚しゃぶ鍋)	
	14:00 自由時間	21:00 キャンプファイヤー	
	17:00 夕食の準備(カレー)		
	19:00 夕食、片付け		
	20:00 登山行程の確認		

<1日目>妙高高原駅に降り立つと、ひんやりと澄んだ空気が心地よく感じられた。ヒュッテに向かうバスの中からは、色づき始めた木々と稲刈り直前の黄金色の田んぼがおりなす秋らしい風景、またその脇で採餌を行うサルなどを見ることができた。笹ヶ峰実習は、以前から楽しみにしていた実習だったが、この時点ですでにかかなり気分が高揚した。また、初めて訪れた京大ヒュッテは新しいこともありとてもきれいで快適だった。簡単な清掃、寝床の確保を終えた後、杉山さんの先導のもと散策に出かけた。ヤマブドウ(*Vitis coignetiae*)や、さるなし(*Actinidia arguta*)のなるポイントを教えていただき、皆で夢中になって採った。最終的にヤマブドウは、ビニール袋4個分の大収穫となった。採ったヤマブドウは夜にふさから外し、ジュースに加工した。

<2日目>午前中、往復3時間ほどかけて、ハイキングを行った。動植物を観察しながら、笹ヶ峰神社、牧場、水源地等を巡った。嵐の翌日だったためか、どんぐりや椎の実がたくさん落ちていた。きのこも多くの種類が見られた。帰り道に通った牧場では15頭ほどのサルの群れに遭遇した。ゴトモも3~4頭おり、遠く

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

の方で転げ回って遊んでいた。幸島・屋久島で見たサルに比べて、ここのサルは毛がふさふさしていて丸みを帯びていた。これは、スリランカの高原にいた「ベアーモンキー」(カオムラサキラングール)と共通した特徴であった。

<3日目>火打山登山を行った。5時に出発し、行きは6時間、帰りは5時間ほどかけて歩いた。天候に恵まれ、徐々に色の濃くなっていく紅葉や、遠くまで連なる山々の風景を楽しみながら登ることができた。山の中腹からは、富士山のシルエットも望むことができた。登山道がきれいに整備されており、休憩も1時間に一回程度はさんだためか、最後まで軽い足取りで歩くことができた。それでも山頂の直前は傾斜が急で息が上がったが、下山してくる人々が「あと5分くらいだよ」などと声をかけてくださったことがとても励みになった。帰り道では逆に他の登山客に声をかけたりもして、見ず知らずの人と苦しみや喜びを共有できることも登山の醍醐味のひとつであると感じた。

<4日目>

ロープワーク、およびビバーク設営についての講習を受けた。ロープワークでは、ちょっとしたひもの回し方によって機能が異なることがわかった。山でとっさの時に(例えば、ロープを頼りに崖を降る際など)それを知っているか否かで生死が分かれることもあるだろう。フィールドだけでなく日常生活でも役に立つ知識ばかりだったので、忘れないようにしたい。ビバーク設営講習では、ツェルトと呼ばれる薄い布とロープでいかにして野営するかを学んだ。ツェルトは、簡易テントとしてだけでなく、体温を保持するための毛布や、荷物を運ぶふるしき、担架、雨天時のポンチョ等、様々な用途に使うことができると知り、驚いた。

<まとめ>

美しい風景の中、良い時間を過ごすことができた。

エベレスト登頂経験のある山本宗彦さんをはじめ、フィールドワーク経験数十年の偉大な先生方のもと、自然の楽しさ、そして厳しさを教えてもらえるという点で有意義な実習だった。ただ、サバイバル技術を習得するという目標を掲げるのであれば、コンパスと地図を使って道なき道を歩くとか、実際に野営を体験するなど、経験豊富な先生方の監督のもとだからこそできる、少しくつめの実習内容があったほうが、より得るものが多かったのではないかと思う。

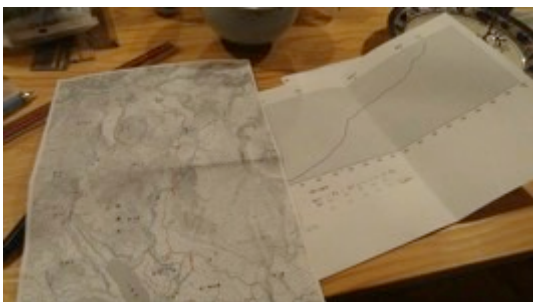
夕食後などに、先生方のフィールドでの経験についてお話を聞けたのも勉強になった。長年北極や南極で氷の研究をしていらっしやっ伊藤先生の、「きついフィールドに行けるのは若いときしかないから、行きたい場所があるなら行った方がいい」という言葉、また雪山で急死に一生を得た経験のある幸島先生の、「いざというとき生き残るために大切なのは、絶対にあきらめないこと」という言葉が心に残っている。



採集したやまぶどうとさるなし(1日目)



散策の様子(2日目)

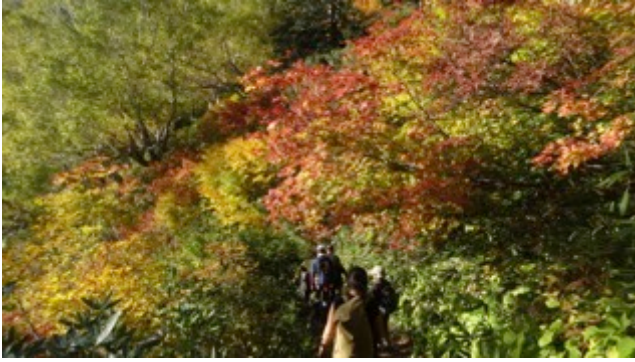


地図を見て登山の行程を確認(2日目夜)



山頂が見えた!(3日目)

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



美しい紅葉のなかを行く (3日目)



キャンプファイアー(3日目夜)



ロープワークの練習をする学生たち(4日目)



ビバーク設営の様子(4日目)

6. その他 (特記事項など)

本実習はPWSリーディングプログラムの支援を受けて行われました。プログラムコーディネーターの松沢哲郎先生、および関係者の皆様に感謝いたします。また、食材の調達から実習の進行まで多くを担ってくださった杉山茂先生をはじめ、講師の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。